

# 大正期の東野小学校 校舎の配置や学校生活

たいしょう ねん しょうがっこう そつぎょう ふるやま え つづ ぶん なか ひがしのしょうがっこう こうしゃ はいち  
 大正11年に小学校を卒業した古山ふみ江さんが綴った文の中には東野小学校の校舎の配置の  
 たいしょう ねん そつぎょう なかしまりょうへい みやけえんろく たいしょう ねん そつぎょう すずきたかみ  
 こと、大正12年に卒業した中嶋良平さん、三宅円六さんや大正14年に卒業した鈴木孝美さん、



大正11年卒業生

しのはらしげこ がっこうせいかつ ようす しょう つづ  
 篠原茂子さんは学校生活の様子を詳しく綴っています。

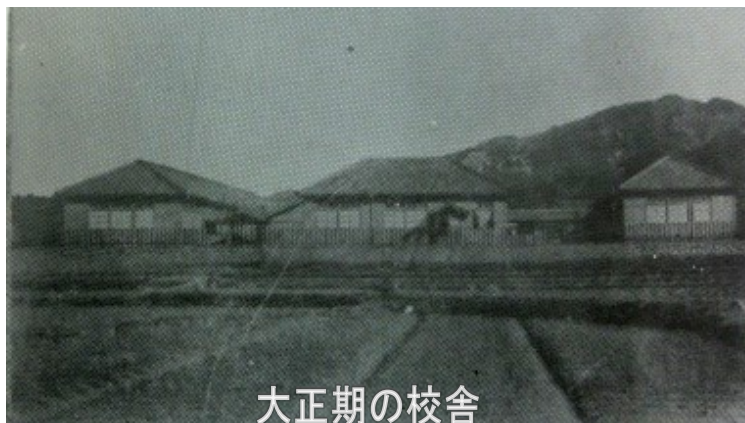
めいじ ねん しょうしつ あと けんせつ ひらや  
 ●明治42年に焼失した後に建設された平屋  
 あた こうしゃ まな こうしゃ みなみこうしゃ  
 の新しい校舎で学びました。校舎は南校舎と  
 きたこうしゃ りょうこうしゃ しょくいんしつ  
 北校舎にわかれ、両校舎は職員室でわかれて  
 みなみがわ ちゅうこんひ きたがわ おお  
 いました。南側には忠魂碑、北側には大きな  
 やなぎ き ちゅうこんひ やなぎ き  
 柳の木があり、忠魂碑と柳の木をぐるぐる



大正12年卒業生

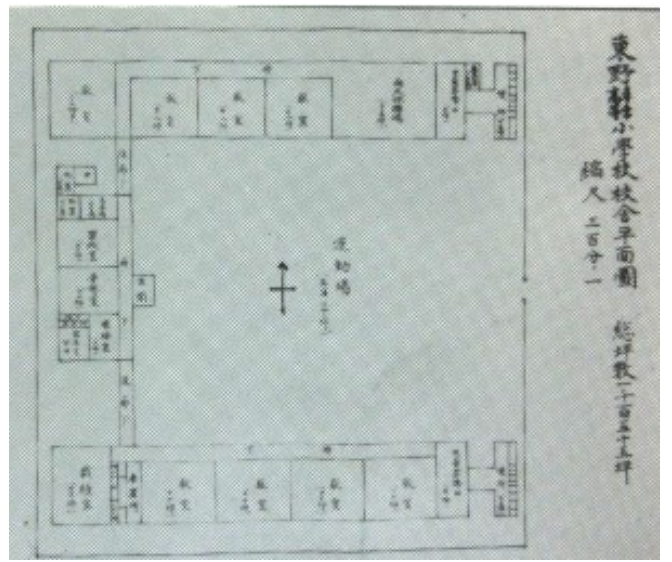
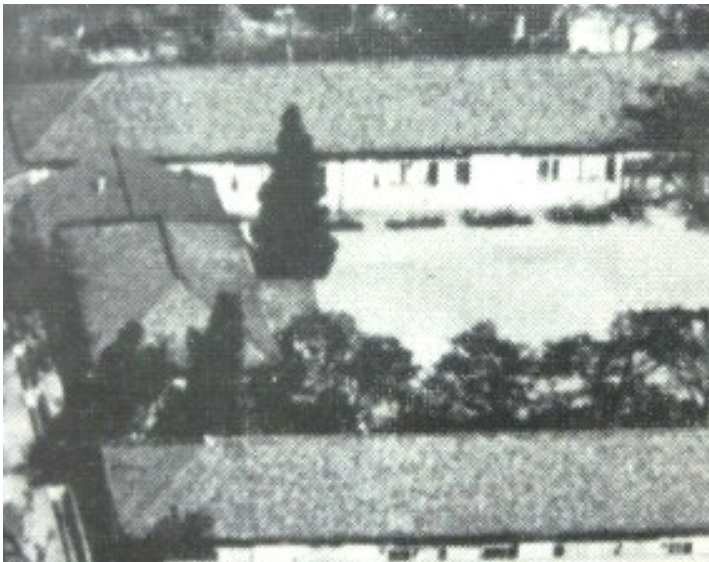
おに きたこうしゃ  
 まわって鬼ごっこをしていました。北校舎に  
 うてんたいそうじょう ねんせい ねんせい  
 は、雨天体操場と1年生から3年生までの  
 きょうしつ しょうかしつ みなみこうしゃ ねんせい  
 教室と唱歌室とがあり、南校舎には4年生か  
 こうとう ねん きょうしつ ごしんえいしつ さいほうしつ  
 ら高等2年までの教室と御真影室と裁縫室  
 ふるやま え  
 がありました。(古山ふみ江)

しき(ぎょうじ) ひ みなみこうしゃ きょうしつ さかい  
 ●式(行事)がある日は南校舎の教室の境  
 いたど はず しきじょう しきじょう  
 の板戸を外して式場にしました。式場になっ  
 さんだいせつ だんし じよし はかま  
 た三大節には、男子も女子も袴をはいて  
 とうこう こうはくまんじゅう  
 登校しました。紅白饅頭がもらえるのでとて  
 しき そんちょう・ちゅうざい けん  
 もうれしかったです。式には村長・駐在が剣  
 さ き ゆうびんきょくちょう おお  
 を下げて来ました。郵便局長さんは大きな  
 ひげ せんせい ひげ  
 髭をはやしていました。先生たちもチョビ髭  
 うんどうかい お つぎ  
 をはやしていました。運動会が終わると次の  
 ぎょうじ けいとうざい い かぶぎ しばいけんぶつ  
 行事は恵東座へ行って歌舞伎の芝居見物で



大正期の校舎

わりこべんとう なに たの  
 した。割り弁当がもらえるのが何よりの楽しみでした。冬が近づくと体操の時間はストーブ用の杉の  
 お はひろ やさかじんじゃ い もくたん あぎ  
 落ち葉拾いをするために八坂神社へ行きました。ストーブの木炭は阿木からチョンマゲをつけたおじ  
 うま はこ なかしまりょうへい  
 さんが馬で運んでいました。(中嶋良平)



大正期の校舎と校舎平面図(明治43年落成)



大正14年卒業生

たいしやう ねん にやうがく すずきたかみ  
大正8年に入学した鈴木孝美さんは、  
ちちおや て ひか さいほうしつ にやうがくしき  
父親に手を引かれて裁縫室で入学式を  
おこな ねんせい おがわこうちやうせんせい  
行ったこと、1年生は小川校長先生が  
たんじん くだ つづ  
担任だったことなどを詳しく綴られてい  
ます。この小川校長先生は眼鏡をかけて  
ひげ は ふく せんせい  
ドジョウ髭の生えたツメエリ服の先生でし  
ねんせい しちやう どくしん  
た。2年生は市長というあだ名の独身の  
せんせい きもの はかま ふくそう ねんせい  
先生で着物に袴の服装でした。6年生の

とき とほ えなさん とざん ころ しょうがっこう さか ぐん たいこうじあい  
時は徒歩で恵那山に登山がありました。その頃の小学校はスポーツが盛んで郡の対抗試合のため  
きやうぎ ねつちゆう すずきたかみ  
に競技に熱中していました。この鈴木孝美さんは、昭和51  
しんこうしゃけんちくとうじ えなし きやういくちやう つと  
年(1976)の新校舎建築当時に恵那市 教育長 として勤め  
とうじ なつ ふ かえ  
ていて、当時を懐かしく振り返ってみえます。



盛んだったスポーツ(運動場で相撲大会)

たいしやう ねんそつぎやう みやけえんろく つぎ むかし  
大正12年卒業の三宅円六さんは、次のように昔のこと  
おも だ つづ とうじ せんせい かみさま  
を思い出して綴られています。当時は先生は神様のような  
ひと えら ひと わる しか ひと おも わたし このかわ す こ  
人、偉い人、悪いことをすると叱る人としか思えませんでした。 私たち小野川に住む子どもたち  
きろめーとる やまみち ある とうげこう ねんせい とき べんとう も とうこう がっこう つ  
は4 km の山道を歩いて登下校するので、1年生の時から弁当を持って登校して、学校に着くと  
べんとう た  
弁当を食べていました。

たいしやう ねん そつぎやう しのはらしげこ うんどうじやう ほくとう  
 大正14年に卒業した篠原茂子さんは、運動場の北東にあった  
 ふるいど うえ おお まる き ふた やす じかん  
 古井戸の上に大きな丸い木の蓋がしてあって、休み時間になると  
 うえ てだま まり あそ こうたいし  
 その上でお手玉や毬つきをして遊んだことや皇太子がヨーロッパか  
 ぶじきこく ぜんこうじどう ぎやうれつ  
 ら無事帰国されたので全校児童でちょうちん行列をしたことを  
 つづ  
 綴ってます。



ぎやうれつ さいしよ はまいば だいもん しみど とお ひがしの じゆう ある  
 ちょうちん行列は最初は浜井場に行って、大門から染戸を通して東野中を歩くコースでした。  
 せかい せんうん げんき うた とくときばんざい とな むらじゆう めぐ とし  
 「世界の戦雲おさまりて…」と元気に歌い、時々万歳を唱えながら村中を回りました。この年に  
 うんどうかい おんがくたい くわ ごしんえいしつ こうちやうせんせい とびら あ おと ま しろ てぶくろ  
 運動会に音楽隊が加わりました。御真影室で校長先生が扉を開ける音や真っ白な手袋をはめて、  
 うやうや ちやくご はこ おも だ ちやくごほうどく おわ じどう いっせい はなみず  
 恭しく勅語を運んでいたことが思い出されます。勅語奉読が終わると、児童が一斉に鼻水をすす  
 るので、まるで蝉が鳴き出したように騒然となり、その後先生オルガン伴奏で歌を唄っていま  
 した。

## 大正期の児童生徒の作品 大正2年(1913)卒業生作品





不能といふ語は唯  
 愚人の辭書に在り  
 足立義勝

不義より富且貴  
 きも浮屠の如志  
 高二 篠原みこ

整頓和樂  
 高二 鈴木愛蔵

神は正直の頭に宿る  
 陰徳あれば陽報あり  
 東野善左門

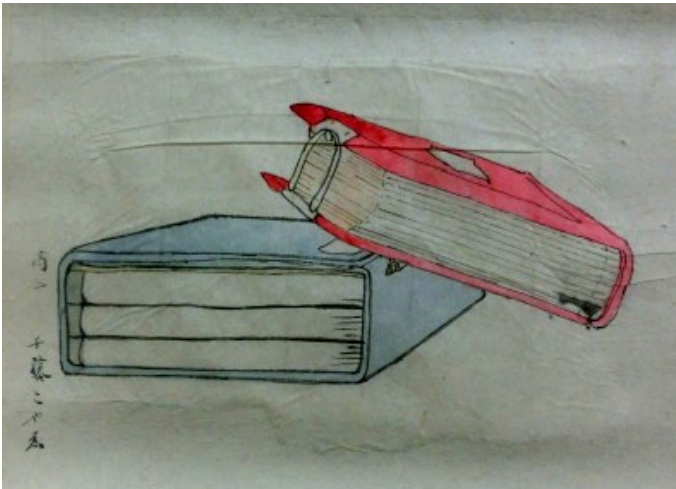
正義中和清潔  
 沈着貞操謙遜  
 高二 伊藤義

實驗學理指導  
 高二 伊澤正

東野コミュニティセンター貯蔵

# 大正期の児童生徒の作品

大正3年(1914)卒業生作品



君が爲散れと  
教へておのれまづ  
あらしにむかふ  
櫻井の里  
小坂信太郎

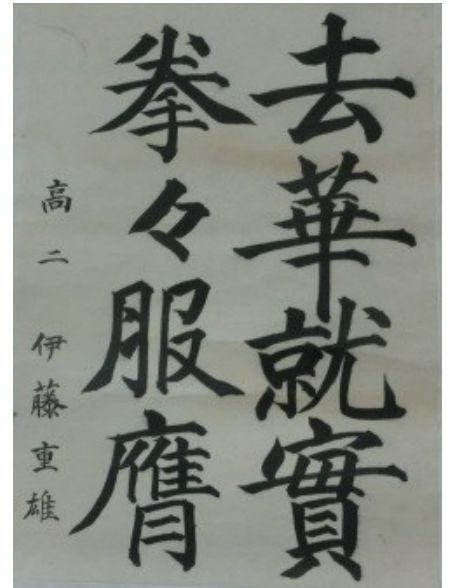
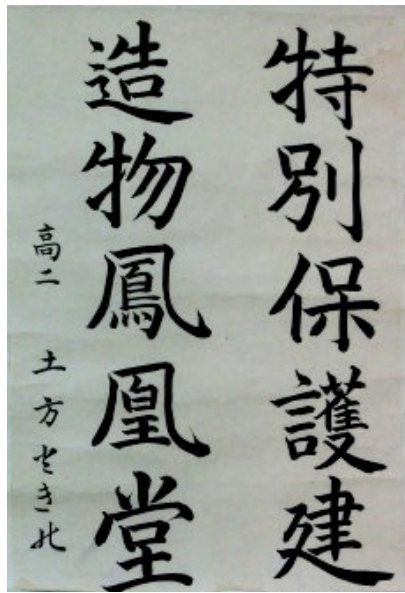
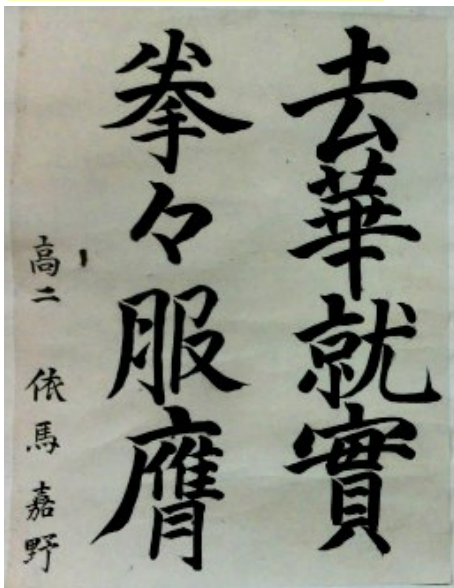
親おもふ心にまゝなる親心  
夕日のおとづれ何とぞくらん  
篠原半造

盡忠奉公  
藤田助市

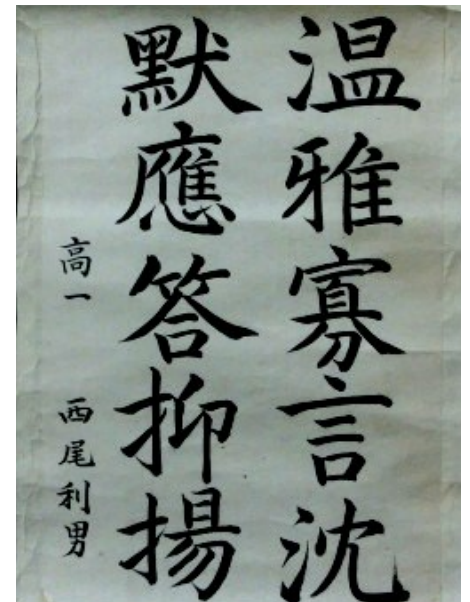
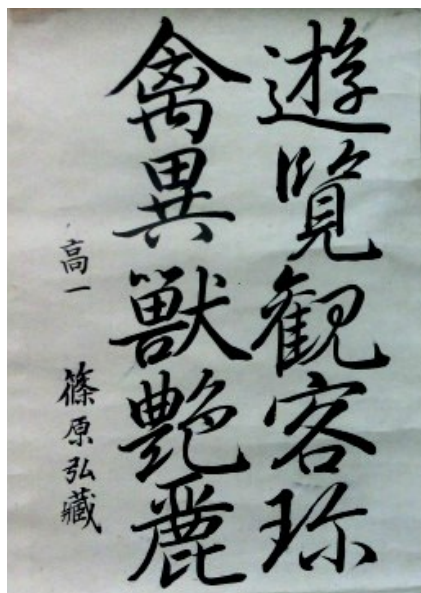
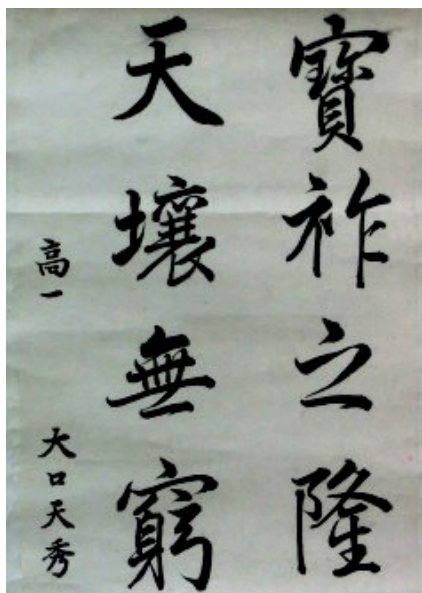
大正5年(1916)の高等科2年～尋常小学校2年生の 作品

東野コミュニティセンター貯蔵

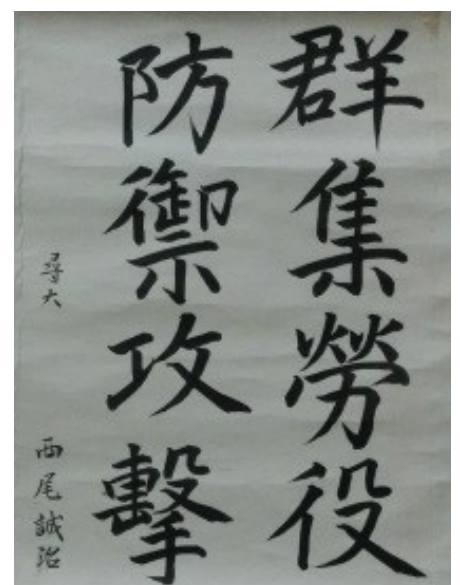
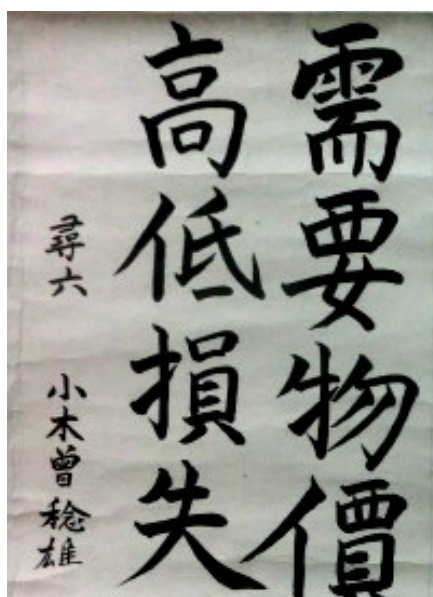
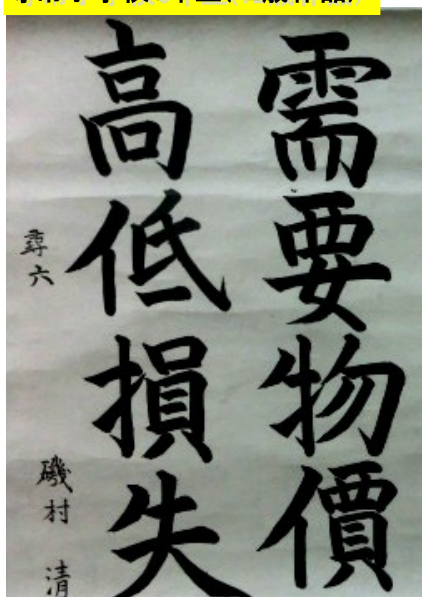
高等小学校2年生(14歳作品)



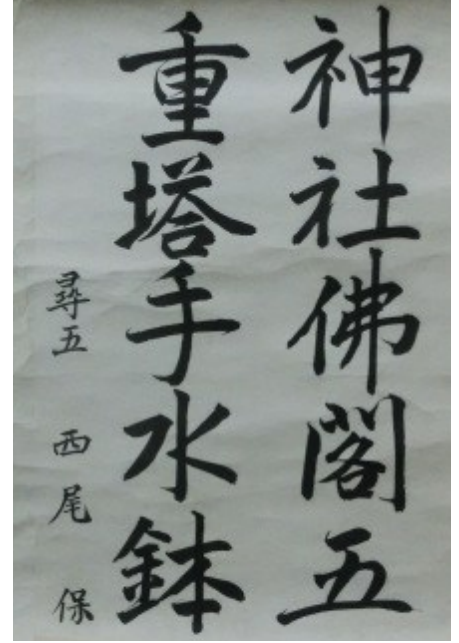
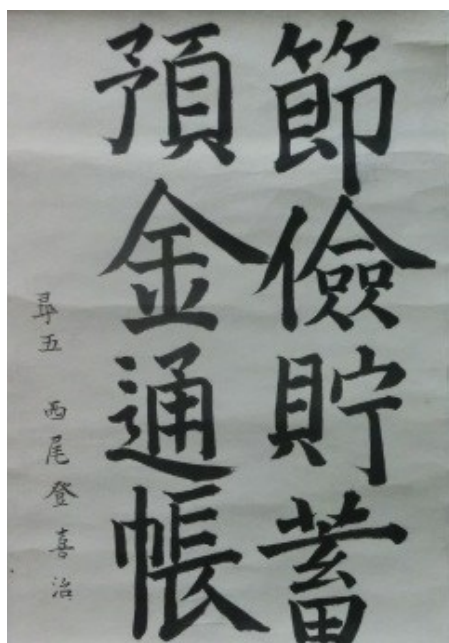
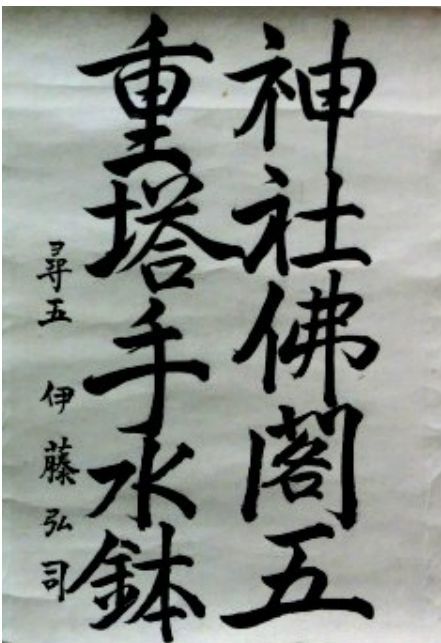
高等小学校1年生(13歳作品)



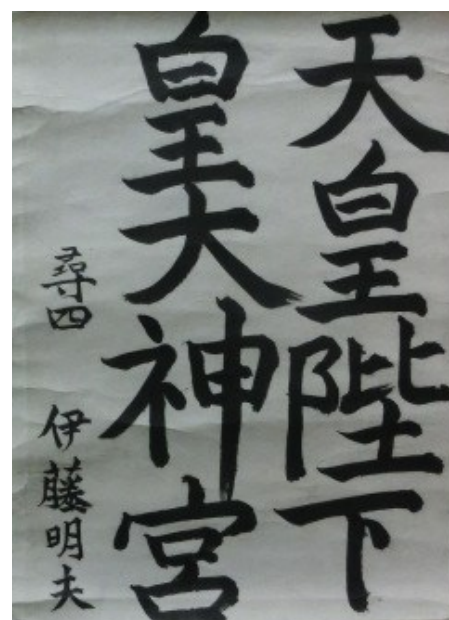
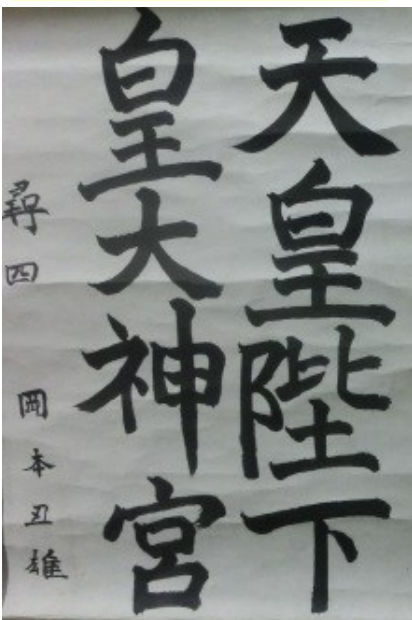
尋常小学校6年生(12歳作品)



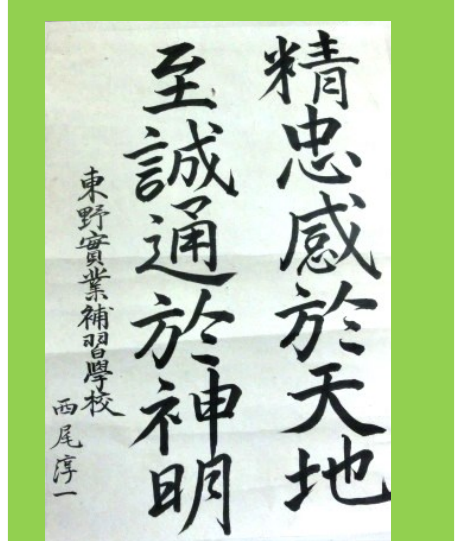
尋常小学校5年生(11歳作品)



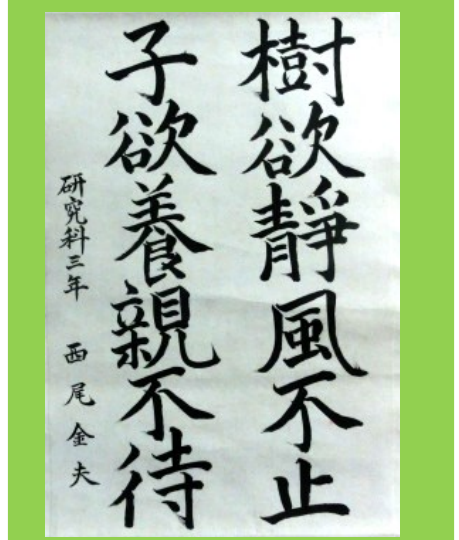
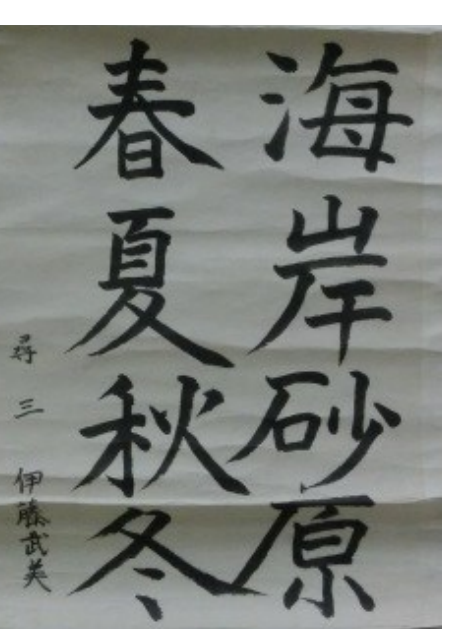
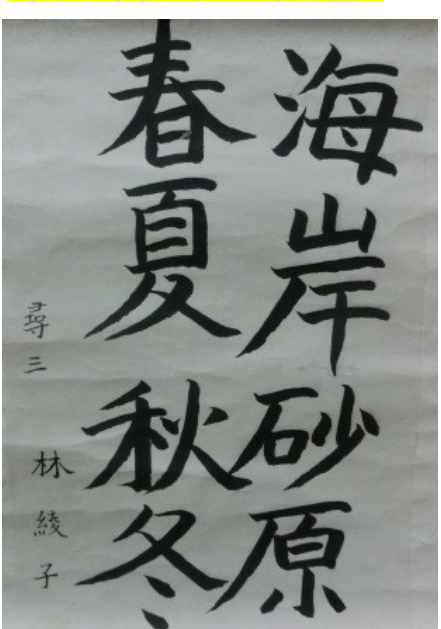
尋常小学校4年生(10歳作品)

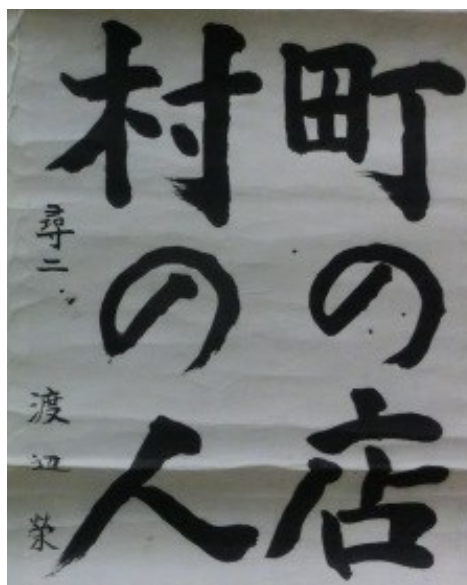
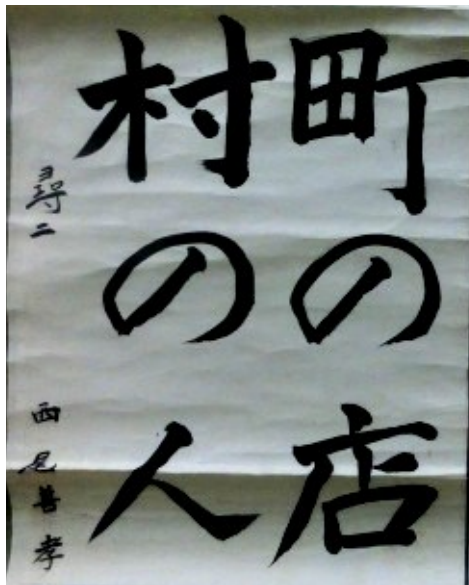


明治26年(1893)に併設された農業補習学校の学生たちの大正5年(1916)の作品



尋常小学校3年生(9歳作品)





大正9年(1920)卒業写真



大正10年(1921)卒業写真

